

みつをぬりて見よといひければ、さ申てありをいれたりけるに、みつのかをかぎてまことにいととうあなのあなたのかちに出にけり、さて其糸のつらぬかれたるをつかはしたりける後になん、猶日本はかしこかりけりとて、のちくはさる事もせざりけり、○中 其人の神になりたるにやあらん、

〔日本靈異記〕中罵僧與邪姪得惡病而死緣第十一

聖武天皇御世、紀伊國伊刀郡桑原之狹屋寺尼等請奈良右京藥師寺僧題惠禪師奉仕十一面觀音悔過時、彼里有一凶人、姓文忌寸也、天骨邪見不信三寶、凶人之妻有上毛野公大椅之女、一日一夜受八齋戒、夫從外歸家而見無妻、即往喚妻、導師見之宣義教化、不信受曰、汝婚吾妻、頭可所罰、破斯下法師矣、惡口多言、具不得述、喚妻歸家、即犯其妻、卒爾閉著蟻嚼痛死、

〔日本靈異記〕下彌勒丈六佛像其頸蟻所嚼示奇異表緣第廿八

紀伊國名草郡貴志里有一道場、號曰貴志寺、○中 白壁天皇仁、○光代有一優婆塞、初夜思疑行路之人

得病參宿、○中 呻音每夜不息、行者不得聞忍、故起窺看、猶無病人、然最後夜倍於常音響于大地而大

痛呻、猶疑塔靈也、明日早起見堂內、其彌勒丈六佛像頸斷落在云、大蟻千許集嚼摧其頸、行者見之告

知檀越檀越等復奉造副、

〔寶物集〕五小沙彌蟻子ヲ助ノ事

小沙彌七日ノ内ニ死スベキ相アリ、彼沙彌道ヲ行ケルニ、蟻ノ子ノ一ツ水ニ流レケルヲ助生タリ、其故ニ此沙彌ガ命延タル事アリキ、

〔蟲譜圖說〕七 弘化丁未四月野火留○武藏新坐郡ノ平林寺山中、朽タルアリ、其底黃赤、大蟻多ク、

其大五分、其色黃赤、走ル最早シ、廣東新語所謂ノ黃赤大蟻ナル者ハ、是ノ類ナラン、

〔嬉遊笑覽〕十二 蟻の熊野參り。長嘯子虫の歌合なさけなき君が心はみつの山くまのまいりをし